

2 リニア中央新幹線に関連する基盤整備に対する支援について

【国土交通省】

《提案・要望事項》

国家的見地に立ったプロジェクトであるリニア中央新幹線を地域振興に結びつけるため、一般国道 153 号などのアクセス道路やリニア駅の関連施設等、リニア中央新幹線に係る基盤整備について、国による整備や地方負担に対する財政支援を行うこと。

【現況、課題等】

国土の大動脈となり、世界最大のスーパー・メガリージョン形成に寄与するリニア中央新幹線の建設は、国家的見地に立ったプロジェクトである。また、関連する道路やリニア駅周辺の広場、駅利用者の利便施設、J R 飯田線との連絡施設等の基盤整備は、主として地方が行うことになり、地方に大きな財政負担が生じる。このため、リニア関連事業を国の重点施策に位置付け、交付金事業等の十分な予算配分、地方負担に対する適切な財政措置、及び一般国道 153 号の権限代行等を求めるものである。

リニア中央新幹線開業に向けての流れ

平成 23 年 5 月	国土交通大臣、J R 東海を建設・営業主体に指名 同社に建設の指示
平成 26 年 10 月	国土交通大臣による工事実施計画の認可
平成 27 年～	リニア駅周辺整備・リニア関連の道路整備
平成 28 年 11 月	南アルプストンネル（長野工区）工事着手
平成 39 年	東京 - 名古屋間開業予定

【長野県の取組】

- 1 リニア中央新幹線の整備効果を広く長野県内に波及させるため、広域的な地域づくりの指針となる「長野県リニア活用基本構想」を平成26年3月に策定。また、長野県駅の駅勢圏となる伊那谷地域においては、伊那谷自治体会議を設置し、「リニアバレー構想」を平成28年2月に策定。「未来を先取りしたまちづくり」「定住・交流人口の増加」「産業振興」の3つのプロジェクト化に取り組んでいる。
- 2 リニア関連道路の整備として、広域幹線道路である国道153号の機能強化や中央自動車道とリニアの一体化などの観点から、10箇所について、リニア開業時までの効果発現を目指して整備を推進している。また、平成24年度から国道153号の指定区間編入等について要望している。
- 3 飯田市は、長野県の南の玄関口として、リニア駅の高度なトランジットハブ化や交通アクセス、ネットワークの強化、地域振興策等を盛り込んだ「リニア駅周辺整備基本構想」を平成27年6月に策定。引き続き基本計画の策定に向けて、県などと連携しながら検討を進めている。

（県所管部局）建設部

【参考】

1 リニア関連道路として整備を目指す箇所

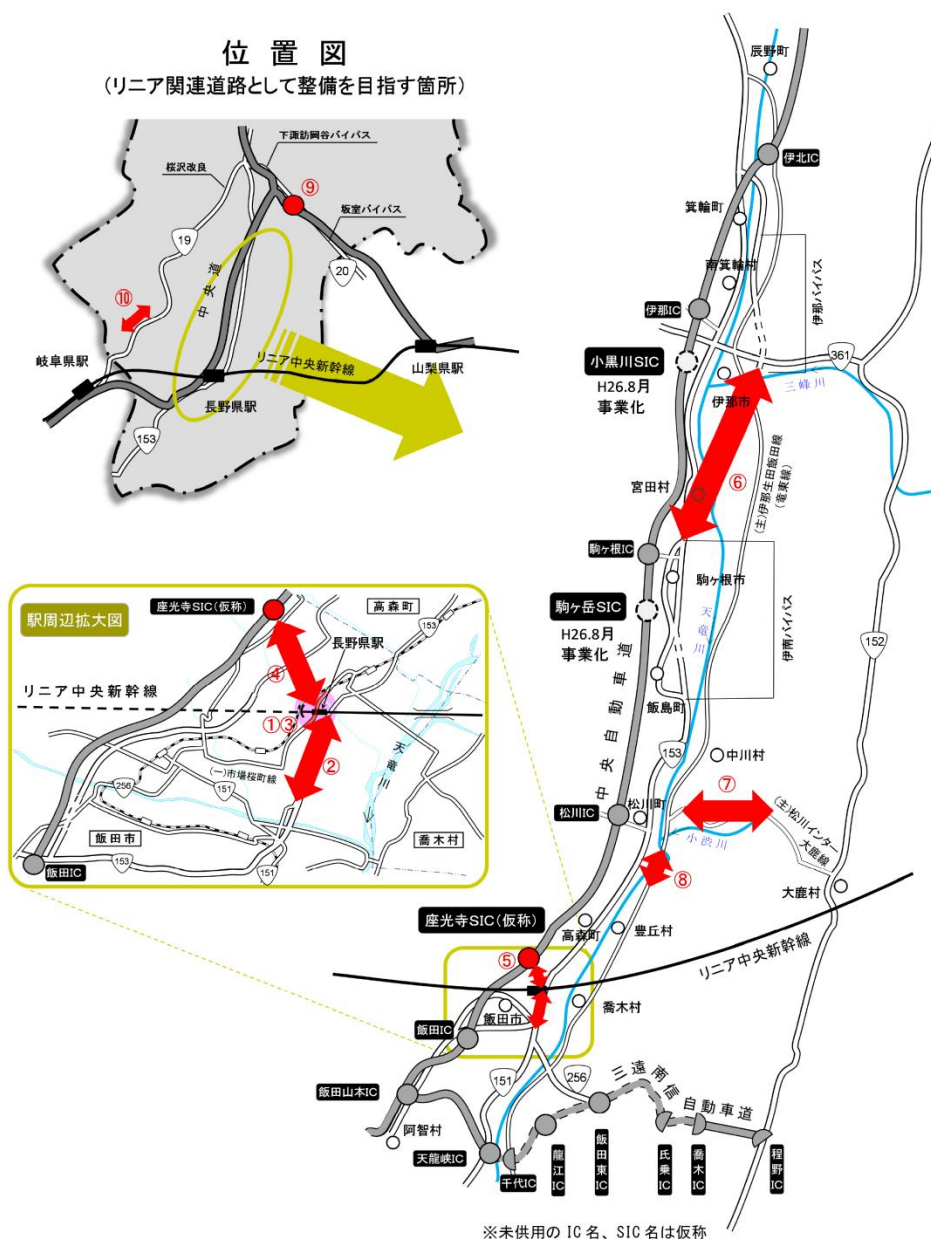
区分	番号	箇所	実施状況
長野県駅の周辺整備	①	交通広場、駐車場等	整備基本構想策定（飯田市）
	②	（国）153号 飯田北改良	H28 事業着手（長野県）
	③	（一）市場桜町線 飯田市上郷	鉄道交差協議（長野県ほか）
高速道路とリニアを一体化する道路整備	④	座光寺上郷道路	H28 事業着手（長野県）
	⑤	座光寺SIC（仮称）	H28 連結許可申請（飯田市）
	⑥	（国）153号 伊駒アルプスロード※1	都市計画アセス実施中（長野県）
ＪＲ東海のトンネル発生土運搬路確保に合わせた道路整備※2	⑦	（主）松川インター大鹿線 渡場～滝沢	H27 事業着手（ＪＲ東海、長野県）
	⑧	（主）伊那生田飯田線 松川町 宮ヶ瀬橋	H27 事業着手（長野県）
リニア3駅活用交流圏の実現に向けた道路整備	⑨	諏訪湖SIC（仮称） 他周辺道路整備	準備段階調査（国、県、市ほか）
	⑩	木曾川右岸道路（読書ダム～戸場ほか）	H28 3箇所事業着手（長野県）

※1 長野県で調査を進め、整備主体はルート等が決定した段階で検討する。

※2 他の運搬路についても経路の具体化に合わせ、まずは、事業者であるＪＲ東海が安全の確保を図ることを基本に、ＪＲ東海、道路管理者及び関係市町村で対応を協議する。

このほか、既に着手している事業についても、計画的かつ着実な実施が必要。

2 位置図



国においては、三遠南信自動車道（飯橋道路）、国道 19 号桜沢改良、国道 20 号坂室バイパス、下諏訪岡谷バイパス、国道 153 号伊南バイパス（権限代行）、県内の幹線道路網調査を実施中